

1)【午前の部:10:00~11:30】

▶参加者:9名

【質疑応答】

●WEB予約状況について	
質問①	WEBで予約した内訳は?若者の割合が多いのではないかと今、70代の世代にとってWEB予約はハードルが高い。今後WEBのみの予約になった場合、高齢者が予約することが難しくなってしまう、利用できなくなってしまう。
回答①	WEB予約の内訳については、今回事前の利用登録を行っていないのでどの世代が多かったのか等の内訳についても分からない。高齢者にとって、WEB予約についてハードルが高いと感じていることは認識している。急に「来年からWEBのみです」とはならないので安心してください。ここ数年は電話+WEBでの対応になると思っている。
●住民説明会について	
質問②	今回(令和6年度)の実証実験の各地区で行われたという説明会が、運営委員会とサロンということだが、運営委員会で説明されても組合長まで、地域の住民へ下りてこない。また、サロンのみの説明となると、高齢者中心となる。それ以外の若者層には周知できないと思う。また、回覧板にしても見ない人が多いと思う。
回答②	運営主体側としても周知が不足していたと反省している。今年度の実証実験では周知方法を検討して、積極的にイベント(祭り)等を活用して広報活動に努められればと周知方法を検討している段階である。何か良い方法があれば、ご教唆いただければと思う。
●ポスターやチラシについて	
質問③	イメージカラーの黄色は目に留まりやすい色ではあると思うが、表紙に情報を詰め込みすぎていて、読む気にならない。高齢者は、字(情報)があまりにも多すぎると読むことにも嫌悪感を抱いてしまう方もいる。
回答③	貴重なご意見ありがとうございます。今後の参考にいたします。
●乗合タクシーのラッピングについて	
質問④	普通のタクシーと乗合タクシーの見分けがつきにくい。これでは来ても分かりにくい。ステッカーを大きくして、ボンネットの上に貼ったり、ラッピングしてはみては?独自調べではラッピングには8万円ほどかかるようだが。子どもの目を引くような、目立つ車両の方が良いと思う。
回答④	確かに車体に貼ったステッカーは小さかったと反省しております。ラッピングについてはとても良いアイデアだと思いますが、実証実験の段階では難しいのかなと思う。車体も臨時で借りていることや、利用者が増えて、車両を代えたい場合等に支障が生じる。今年度はステッカーについても検討したい。
●今後の公共交通の予定について	
質問⑤	令和7年度実証実験の結果はどうあれ、今後はデマンドを導入して、コミュニティバスはなくなってしまうのか?
回答⑤	コミュニティバスをなくすということではありません。基山町にあった公共交通は何かについて町全体で検討し、公共交通の再編成を行う予定です。その中でデマンド交通の導入も選択肢の一つであるという事です。
●免許返納促進について	
質問⑥	免許返納促進はデマンド交通へ誘導しているのか?
回答⑥	免許返納者にだけデマンド交通を促進している訳でもありません。公共交通は高齢者の方のためだけの乗り物ではありません。なかなか難しいかとは思いますが、自家用車を保有している若者世代にもぜひ週に一回でいいので公共交通に乗っていただいて、地域へ貢献して欲しいと考えています。

●配布チラシについて	
質問⑦	令和6年度の実証実験の時に高齢者訪問をする時は、高齢者に分かりやすい資料をプラチナ社会政策課では課独自で作成して説明した。各年代に合わせた資料作成をお願いしたい。また、お財布に入る大きさの小さなカード(予約の電話番号と自分の電話番号を記入できる)があるととても便利だと思う。高齢者への資料は電話予約を念頭に置いて作成する方が良い。
回答⑦	貴重なご意見をありがとうございます。今年度の実証実験において、参考にさせていただきます。
●デマンド運行について	
質問⑧	免許返納時のメリットをもっと分かりやすくした方が良い。 免許返納時にもらえるタクシーチケット(6,000円分:500×12枚)と比べるとおすすめするメリットが弱い。
回答⑧	免許返納関係の部署は別の部署が受付を行っている。今年の実証実験期間中は、連携して、期間中に役場へ免許返納に来庁された時にもPRできるように調整したい。 公共交通はすべての人のためのものであり、福祉とは切り離して考える必要もある。 配布される枚数が限られているタクシーチケット(無料)と併用しながら、ご利用いただければと思います。 急いでいる場合はタクシー、時間に余裕がある時はデマンド交通(乗合タクシー)、安い料金を重視される方はコミバスというように、目的地へ行くための手段の選択肢が一つ増えたと思っていただきたい。
●令和6年度の実証実験の最終日について	
質問⑨	実証実験の最終日は、利用者が50名と最大だったと先ほど報告があったが、混雑して乗れなかったりしたのか？
回答⑨	当日、混雑したわけではない。予約をされた方は通常とおりにご利用いただけたと思う。 デマンド交通は乗り合うことを前提で運行している。他の実際に運行している地域での事例では乗り合うことで割引が発生する制度を採用している地域もある。また地区対抗にするなど、乗合率を高めるための方法を模索・検討していきたい。
●運行台数について	
質問⑩	令和6年度の実証実験では運行台数は通常のタクシー2台であったが、この台数は妥当なのか？
回答⑩	町の規模や利用状況からみてもちょうどいい台数だと思う。利用される方がもっと多くなれば台数や車体の大きさについて検討する必要があるが、現時点では2台で十分である。

2)【午後の部 14:30~15:30】

▶参加者:7名

【質疑応答】

● 運賃割引について	
質問①	令和6年度の実証実験では、免許返納者（運転経歴証明書提示者）が100円となっていた。しかし、ない人は300円を支払う制度だった。この200円の差額に不満があるとの声を多く聞いた。
回答①	免許返納された方は移動の手段がある程度限られていることや、コミバスは皆さんの移動を助けるための乗り物であるため割引しています。今年度の運賃については、令和6年度の結果も踏まえて、再度検討していきたい。
● 乗合について	
質問②	乗合という制度だが、親しい人が集まって出かけることは難しいのではないかと連絡をとってわざわざ一緒に行くような付き合いの人はいないし、一緒に乗って買い物をしたとして何を買ったとか知られたくない。
回答②	はじめからお互いに一緒に同じ時間帯に連絡を取って、一緒に買い物に行くというケースももちろんありますが、事前集まって乗ることが前提の乗り物ではありません。 例えば、Aさんが初めに乗ってスーパーに行くとして、その後病院へ行きたいBさんが乗り合わせ場合、乗合タクシーは「Aさんの家⇒Bさんの家⇒スーパー⇒病院」といったルートで運行します。 ただ言われた通り、タクシーという狭い空間での乗合になるので、嫌がられる方が一定数はいる。そこをどう乗りやすくしていくか慣れていただくかということも課題の一つ。
● デマンドタクシーの車両について	
質問③	実証実験の車両は通常のタクシーサイズだったが、もう少し大きくすると金額は変わる？
回答③	令和6年度の実証実験での結果をみると、デマンド交通での運行経費とコミバスの運行経費はほぼ変わらない。運行経費といっても、ほぼ人件費と車両維持管理費。 コミバスの利便性をあげようと増便すると、単純に運行費用は倍々になると思っていただいていい。
● 現行のコミバスについて	
質問④	昨年、免許返納したため、コミバスを利用したり、毎日歩いて移動している。 個人的にはデマンド交通の導入促進よりもコミバスの利便性を向上して欲しい。 また、高速基山パーク&ライドのバス停をもう少し筑紫野市側へ移動できないか？
回答④	まず、高速基山パーク&ライドのバス停の件ですが、今回行われている道路拡張工事と一緒に現在整備されているロータリーにバス停を新設する予定です。 次にコミバスの利便性向上については、コミバスを増便させたら、利便性は上がるが財政負担は確実に増加する。説明資料(P13)にもありましたが、運行費用総額1,890万円の約9割が行政負担、運賃収入は運行費用の1割未満であり、バス停の7割が1日3人未満のご利用状況である。それをできるだけ圧縮するために、必要な場所に必要な分だけ効率的に運行できないかと、試しに実証実験を行っているわけです。一時間に1本だった所を、予約に応じて運行するデマンド交通は、時間に縛られることなくご利用いただけるかなり便利な乗り物といえるため、皆様に体験していただけるように実証実験を行っている。

●デマンドを導入したらコミバスをなくすのか？	
質問⑤	基山町はここ数年、実証実験を行っているが、デマンドを導入したらコミバスはなくなってしまうのか？
回答⑤	コミバスの需要があることは認識している。コミバスをなくすことは現時点では考えていない。 基山町の現状を見極めて、基山町にあった公共交通を再編成していく。 基山町民が見極めていくための実証実験でもあるので、ぜひご自身で一度デマンド交通を利用していただきたい。
●デマンド交通の停留所について	
質問⑥	飲食店は停留所にしないのか？ また筑紫野市への乗り入れはあるか？
回答⑥	飲食店については、現時点では検討していない。 令和6年度の実証実験では、途中からデマンド交通をご利用された方を対象にコーヒー無料券を配布して、連携した町内4店舗で利用できるように停留所に臨時で設定した。指定した店舗へ行くために利用された方もいたことである程度の成果はあったと思う。 また、市や町を跨ぐ運行に当たっては市町間の協議および調整が発生して、かなり難しくなる。バス停を増やすことは検討が必要である。またドライバーも全国的に不足している現状もある。

報告会へご参加いただきました皆様、そして【らくのるきやま】をご利用いただきました皆様、本当にありがとうございました。
令和7年度も国土交通省より採択いただきましたので、今年度も実証運行を9月～11月で行う予定です。本年もどうぞよろしくお願いいたします。
令和6年度ご利用することができなかった方もたくさんご利用いただいた方も、令和7年度のご利用、お待ちしております。

